

浜松文芸館だより

No.82

公益財団法人 浜松市文化振興財団

発行 浜松文芸館(文責:伊熊)

令和6年 11月(秋)

いざない

晩秋から冬へ、文芸館では新展示になりました。

収蔵展【浜松ゆかりの現代日本俳人の系譜展】

かとうせつちょう ひんじん かじん うこう たかし
—加藤雪腸から濱人 そして瓜人、羽公、喬へ—

令和6年11月1日(金)～令和7年2月9日(日)9:00～17:00

* 入場料無料

明治期に俳句の革新運動を進め、現代俳句の世界を築いた正岡子規が登場しました。浜松では、どのように現代俳句の広がりがあったのでしょうか。

今回の展示では、子規の弟子であった加藤雪腸から始まり、原田濱人、相生垣瓜人と百合山羽公、そして原田喬の五人の浜松ゆかりの俳人を紹介しています。そして、濱人創刊の「みづうミ」、瓜人と羽公創刊の「海坂(うなさか)」、喬創刊の「椎」という現在も脈々と継承されている俳誌の発足当時の様子も紹介しています。この三つの俳誌は、毎月発行され、現在「みづうミ」は1000号、「海坂」は900号、「椎」は500号を越えています。浜松の市民の皆さんの俳句創作への熱意も感じていただければ幸いです。

★特色ある展示を紹介します。

←加藤雪腸の俳句に正岡子規の添削が朱書きで添えられた卷子装

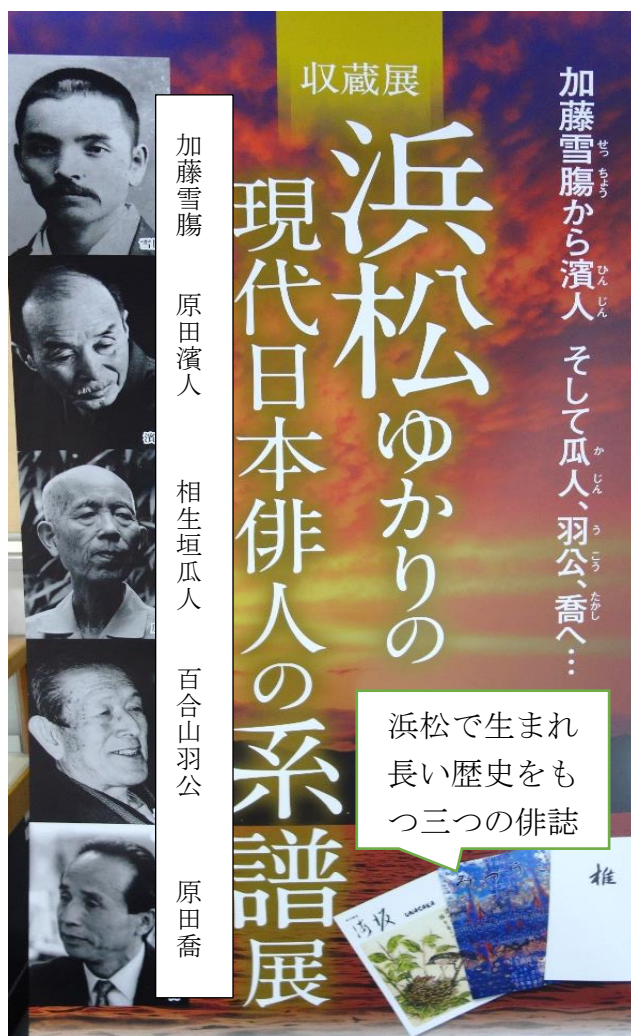


浜松の俳句界をリードした俳人たちは、地方に根ざしながらも、中央で活躍する人々と交わり、人々に大きな刺激を与えました。子規、高浜虚子、河東碧梧桐、水原秋櫻子、加藤楸邨らが浜松を訪れています。歌人の佐佐木信綱、斎藤茂吉、詩人の石川啄木、北原白秋らとの交流の証も紹介しています。



また、時代小説作家として著名な藤沢周平の作品に登場する「海坂藩」は、周平自身が俳誌「海坂」に投稿し、主宰の羽公や瓜人と交流するなかで作品に使われるようになったエピソードも紹介しています。さらに、展示室の随所に「自由閲覧」できるコーナーや手に取って読める句集、俳誌も用意しました。浜松ゆかりの俳人を一堂に知る機会です。ぜひお越しください。

浜松ゆかりの俳人を一堂に知る機会です。ぜひお越しください。



浜松で生まれ長い歴史をもつ三つの俳誌

加藤雪腸 原田濱人 相生垣瓜人 百合山羽公 原田喬

加藤雪腸から濱人そして瓜人、羽公、喬へ…



展示室